

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY 名古屋 ちくさ 題字 伊藤昌石

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 例会場 名古屋東急ホテル
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
 会長 萩原 喜代子
 幹事 渡邊 源市
 広報・会報委員長 池森 由幸

No. 36

ロータリーを实践し みんなに豊かな人生を

2013~2014年度 RI会長 ロンD. パートン

今日の例会
第1500回 平成26年 4月22日 (火)
友愛の日

先週の例会
第1499回 平成26年 4月15日 (火) 晴
クラブフォーラム
地区協議会報告

◆奉仕の理想
 ◆ゲスト紹介

藤田保健衛生大学医学部5年生 生方 盟様
 (渡邊幹事ゲスト)

◆出席報告

会員 40 (35) 名 出席 30名
 出席率 85.71%
 前々回 4 / 3 (修正出席率) 93.55%

渡邊幹事報告

- 1) 次週例会終了後、クラブアセンブリー現・次年度引き継ぎ、その後理事役員会を開催致しますので現・次年度理事役員、委員長の皆様はご予約下さい
- 2) ロータリーの友4月が届いておりますのでお帰りにお持ち下さい
- 3) 11月に開催されました地区大会の記録誌も届いております。出席登録の方々はお帰りにお持ち下さい

萩原会長挨拶

皆様 こんにちは！
 4月3日のお伊勢さん参拝、4月7日の6RC合同例会がございまして本日は4月初めてのホームクラブ例会となります。
 何だか「ああ お家へ帰って来たなあ〜」と思います。
 東急ホテル皆さんの温かい「おもてなし」によるものと思います。
 ありがとうございます。



4月3日の お伊勢さん日帰りの旅では 吉田玄さまのおかげをもちまして 「御垣内参拝(みかきうちさんばい)」ができませんでした。
 吉田さまのお心遣いによりまして より荘厳な儀式に参加できました事 深く感謝申し上げます。
 吉田さま 本当にありがとうございました。
 お伊勢さんへのアクセスと致しまして 参加されたほとんどの方が初めて乗車とおっしゃっていました 近鉄「しまかぜ」でまいりました。予想していた以上にステキでした。レモンイエローのリクライニングシートなど車内の雰囲気は、目的地への気持ちをより高揚させる感がありました。

そして6RC合同例会も無事終わることができました事メンバーの皆様のおかげと深く感謝申し上げます。
 ありがとうございました。

4月16日(水)名古屋マリオットアソシアホテルにおきまして「名古屋守山ロータリークラブ 創立50周年記念式典」が開催され 私・萩原と渡邊幹事さんが招かれ 出席させていただきました。
 創立50周年の長い年月の風格が 式典のすべてに感じられる盛大なパーティーでした。
 今後とも名古屋守山ロータリークラブ様の益々のご繁栄をお祈り申し上げます。

さて 会長としてのお役も残すところ2ヶ月半となりました。もう少しのお付き合いをよろしくお願い申し上げます。会長挨拶でした。ありがとうございました。

地区研修・協議会報告

2014年4月13日(日) 13:00~17:00
 ウェスティンナゴヤキャッスル

◆第1分科会報告 加藤 重雄会長エレクト

2014-15年度のRI会長は台湾出身のゲイリーC.K.ホァン氏でテーマは「ロータリーに輝きを」とお決めになりました。
 そして地域社会でロータリーの存在感を高めること、会員の増強、ポリオの撲滅、各々のクラブの強化、ロータリーデーの実施の五つを強調事項とされました。



2760 地区のガバナー近藤雄亮氏は、瑞穂ロータリークラブ所属で、「集まろう、語ろう、楽しもう」を地区方針とされました。

そして具体的な行動指針として、色々な人達との出会いの場を提供してくれるロータリーの行事への積極的参加、業種、年齢、性別、宗教、思想など色々な人達の集まりに参加し、話しをし、感動する出会いを多く持つ多様性の再認識

ロータリー活動の最も重要な目的である、高い目標を掲げての超私の奉仕の実践を行って行きたい。

ロータリー財団の地区補助金やグローバル補助金を活用しての奉仕活動、インドは終息しましたが、あと少しで全世界からなくなろうであろうポリオの撲滅活動等の奉仕の理想と実践を行って行きたい。

最後に、新入会員の確保、会員の維持、会員の強化等会員の増強の四つを指針とされました。

その他、WFFを地区の周年行事とし、2014年11月1日～3日まで行いますので地区ロータリアンの一層の協力をお願いしたい。又、WFFはRIからの高く評価され注目を浴びている。

◆第2分科会報告 櫻尾 富二君

第2分科会は「クラブ運営部門」として、クラブ奉仕委員長、会員増強委員長、出席委員長、親睦活動委員長、会長エレクト、副幹事を対象として行われました。

アドバイザーとして4名のバスターガバナーからお話があり、森田和昭氏は、ロータリアンは職業、年齢、会の役務・経験にかかわらず対等である。ポール・ハリスはいい友人を作るためにロータリークラブを創ったと述べられました。石川和昌氏は、奉仕の精神、親睦が大事である。一業種5人まで入会が認められているが、職域に偏らず他職種の仲間が集まり交流するのが望ましい。

「出でて学び、出でて奉仕せよ」。大島宏彦氏は、脳梗塞を患い、言葉がしゃべりづらくなされたが、例会への出席率を向上するよう、他のクラブへも出席して交流を深めるよう話されました。齊藤直美氏は、これからのリーダーは、カリスマ性、先見性、実行力が必ずしも無くてもいい。時代の要請で自ずとリーダーが生まれる。町内会長のような皆をうまくまとめていける存在ではないかとお話しされました。

次期ガバナー補佐の野村章夫氏は、クラブ奉仕に努め、出席率増加を図るよう。会場運営では宅話の内容を吟味し魅力ある例会にする。親睦は会員が喜んで参加できる企画を立てる必要性を説かれました。

次期会員増強委員長の石川勝彦氏は「会員増強がクラブの活性化の命である」会員の退会防止、女性会員を含めた新会員の増加に力を入れて欲しいと話されました。

次期会員増強副委員長の光岡新吾氏は2760地区の会員数は最高6,282名から現在4,866名と減少している。入会したくなるロータリー活動を行い、5,000名まで回復させたい。「楽しくなければロータリーではない」と述べられました。



◆第3分科会報告

鍋野 可幸君

職業奉仕委員会・次期委員長 足立一郎、副委員長 榎尾富二さんの代理として標記協議会の第3分科会に出席致しました。

本会議ではガバナー・エレクト近藤雄亮（名古屋瑞穂RC）の所信表明があり、「ロータリーに輝きを“の主旨で、「集まろう、語ろう、楽しもう」の地区方針が採択されました。

次年度第3分科会は（職業奉仕）と（広報）が合同となり、テーマを「公共イメージと認知度の向上を図る広報活動と職業奉仕活動の理念について」と定められました。

「職業奉仕」という理念

- ① 職業上の高い倫理基準
- ② 役立つ仕事は全て価値あるものという認識
- ③ 社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものとする。

分科会では

1、クラブの職業奉仕委員会について

早川和男（次期職業奉仕委員長）

- ① 奉仕は相手に対する満足度（適正価格、接客態度、品揃え、商品知識）
- ② 職業奉仕は自己の職業へのサービス
- ③ 四つのテストの実践（職業奉仕の後に反省）
- ④ 職業視察（企業の体制、従業員の態度）

2、次年度プログラムについて

大林香瑞人（次期職業奉仕副委員長）

- ① 6月11日 深川順一先生セミナー（職業奉仕について）
- ② 8月29日 職業奉仕セミナー（名鉄グランドホテル）



◆第4分科会報告

吉田 玄君

【社会奉仕・RCC・環境保全】

テーマ：奉仕こそロータリーの原点である、自然で豊かな国を！

地区の次期社会奉仕委員長は鈴木與左衛門氏（あま）、環境保全担当の副委員長は杉浦文雄氏（刈谷）、RCC（ロータリー地域社会共同隊）担当の副委員長は杉田和俊氏（豊橋ゴールデン）。

あらかじめ地区内83の各クラブへ活動調査のアンケートが行われた結果、社会奉仕活動として行われているのは、文化・教育（31クラブ）、福祉（22クラブ）、環境（20クラブ）、安全・震災（18クラブ）、健康・スポーツ（9クラブ）であった。

社会奉仕は、福祉面に目が行きがちであるが、文化面・教育面・環境面・安全面など、バランスが良く取れているようであった。



また、28クラブが新地区補助金を活動の原資として活用している。

地区の環境保全に対する次年度の取り組みとしては、「水」をテーマとした社会奉仕活動に焦点を当てるという事であった。

各クラブ提唱のRCCが紹介され、より活発な活動が期待された。

また、11月に開催されるワールドフェスタへの協力が要請された。

ロータリー地域社会共同隊 (Rotary Community Corps)
略称: RCC

ロータリー地域社会共同隊とは、ロータリアン以外から成る、RC提唱による自助組織です。ロータリアンではなくとも、ロータリーの精神にのっとり、自分たちの地元地域を発展させるために活動し、その活動のプロセスで、貴重なグループ活動の技術を習得します。

1986-87年度、マット・カパラスRI会長の時、「ロータリー村落共同隊 (Rotary Village Corps=略称RVC)」として、発展途上国の村落が抱える諸問題を救済することから生まれました。

加えて、先進国都市部における行政のゆがみから生じる、日の当たらない部分の問題に、ロータリーの奉仕の手を差し伸べるといふ活動にも、取り組んでいきました。

その後、RVCは、「Rotary Community Corps (ロータリー地域社会共同隊)」という名に改称され、RCCは環境問題に取り組んだり、地域の留学生を支援したり、地域文化について講演会を行ったり、幅広い活動を繰り広げています。

結成にあたっては、少なくとも10人の成人によって構成されるものとされ、RCCの所在する村または地域社会に居住、就職、勉学中の男女なら、誰でもなれます。

◆第6分科会報告 大谷 恩君

ロータリーの公共イメージと青少年ファミリー (IAC・RAC・RYLA・青少年交換) の認知度向上をテーマに分科会が行われた。

初めに、次期青少年奉仕委員長から青少年奉仕委員会の活動方針についてお話があった。ロータリアンと青少年ファミリー共同でのプログラム企画を実施し、公共イメージと認知度向上に寄与したいという考えから、具体的にその設営の場として、11月1日から3日に開催予定の地区「ロータリーデーの実施」地域密着型のイベントを中心に進めたいという方針が示された。

次に青少年ファミリーであるインターアクト・ロータリーアクト・RYLA・青少年交換のそれぞれの次期委員長から活動方針を含めたご挨拶が次のようにあった。

インターアクト委員会は、募金活動、障害児や高齢者の支援活動、地域の清掃活動等の役割をしっかりと認識し、地区内クラブのさらなる活動の活性化を図るための情報提供と環境づくりに努めていく。同時に今後も会員増強の必要性を認識するとともに新たなクラブの創設



についても検討する。

ロータリーアクト委員会は、会員の増強が急務。中には会員数が一けたになるなど、大変深刻な状況に陥るクラブもいくつかあり、会員増強が何より一番の課題。各提唱クラブにとっても重要な責務であることを認識していただき、アクトと積極的にかわりながら会員の増強に取り組んでいただけるよう働きかける。また、外部との交流や連携の機会を増やすことで相互理解を深めるとともに、ロータリーアクトクラブの認知度の向上にも努め、会員増強の一助としていく。

RYLA委員会は、年齢14歳から30歳までの青少年を対象として、指導者および善良な市民としての資質を伸ばすことを目的として活動を推進する。事業内容として、青少年が、自分自身と社会・世界について新しい発見をすることができ、ロータリアンを模範として、倫理、奉仕、親睦の理念について学べるような機会を提供する。

地区青少年交換委員会は、地区全体の会員数の減少、高齢化によりホストファミリーの確保が難しく交換事業を中止されるクラブが増えてきている。高等学校と連携しホームステイ家庭を学校側でも確保して頂き、各クラブが交換留学を実施しやすい環境づくりの推進、地区内でホームステイ可能なメンバーの方に登録して頂き、短期間ホームステイをお願いするホストバンクを設立し、登録数の拡大を目指す。

以上のように各委員会から方針が示された。

続いて、各委員会別に11月1日から3日に開催される「ロータリーデー」で何を具体的に実施するかグループディスカッションが行われた。

《キャンヘルプタイランド会報より》

■2013年度 キャンヘルプタイランド活動報告

建設プログラム

2013年度はメーホンソン県のバンメーガオ学校での校舎建設という久しぶりのビッグプロジェクトが実施され、予定通り工事が無事完了しました。

支援額100万バーツの建設プログラムで、ワークキャンプの実施も検討されましたが、山岳部でマラリヤの発生事例もあり、今回は断念しました。3月には完成式ツアーが開催されます。

【建設収支報告】

整地	30,000	
労働力	418,000	
資材費	542,470	
フェンス	9,530	
電気工事	3,000	
周辺の環境美化	25,000	
合計	1,028,000	(バーツ)

奨学金プログラム

2013年は新規13名を含め184名の子供たちを支援致しました。奨学金プログラムへの寄付は数年前から減少傾向にあり、それに伴い奨学生の総数を減らしていく方

針を立て、本年度より数年間は各県の新規を1名とすることとしました。

本年度はプリアム県を除く各県で新規は1名として支援を実施した結果、昨年より新規奨学生は6名少なくなっています。それでも予定していた支援人数170名を10名程上回る総数となりました。奨学生の数が、頂いた寄付を上回ったため、今年も昨年と同様、不足分はキャンの繰越金より支援致しました。

【奨学金授与式】

6/24～7/1 迄11の県で実施しました

サッケオ県	16名
スリン県	15名
ヤトーン県	14名
サコンナコン県	18名
カラシン県	18名
ロイエット県	16名
プリアム県	20名
シーサケット県	12名
ムクダハーン県	14名
ナコンパノム県	16名
マハサラカーム県	13名
合計	172名

山岳部少数民族支援プログラム

今年も例年通り、カサロンの家、希望の家とその周辺に住む山岳部出身の民族の子どもたちへの奨学金として120,000パーツの支援が行われました。

このお金は子どもたち一人一人を支援するのではなく、学用品や制服などを安く買うためにまとめて一括購入し、それを子どもたちに配分する形で使われています。

また、2013年3月下旬に4年ぶりの「山岳民族の子どもたちを海へ連れて行こうツアー」が開催されました。今回は、子どもたち、スタッフ等総勢約100名の大ツアーとなりました。

場所はタイ東部のパタヤビーチの近くにあるサタヒップ。ここには海軍の基地があり、軍艦の見学や、海軍の管理する離島へのツアーなども行いました。およそ4年ごとに開催されているツアーなので、大きな子供たちは久しぶりの海に感動し、小さな子供たちは初めての海に感激していました。

ランチプログラム

ここ2～3年、タイの教育省から学校への給食予算が100%支給されるようになり、現在は学生1人1日20パーツの国費の支給で、給食の状況が少しばかり改善されてきました。更に給食基金も設置され、栄養不足の子供たちがいる学校を重点に、キャンヘルプタイランドの給食プログラムを実施してまいりました。

2013年度給食プログラムの実施は2012年12月からの継続プログラムの支援とし、新規プログラムの実施は行わない事となりました。

図書支援プログラム

最近タイではかなりの小学校に図書館があり蔵書も卒業生からの寄付を中心にどんどん増えていて、キャンが当初目的とした「子供たちの教育環境の整備の一環としての図書支援」から、図書館活動（図書館内整備や

創作活動）への支援にも力を入れるようになりました。

毎年応募していた可児市の絵本コンクールが昨年度終了したため、今年度は（タイの学校は5月から新学期が始まるため応募まで時間かあまり有りませんでした）9月に豊田市図書館のコンクールに3作品を応募しました。結果は入選とはなりませんでした。タイの子供たちには大きな励みになっているようです。

毎年「絵本コンクール」の参加者へ渡していた記念品は今年度支出できなかったため来年度に繰越をいたしました。なお昨年度作成した「ちょうちゃんの絵本」をタイの関係小学校や、長年キャンの活動を支援いただいた日本の関係先へ寄付させていただきました。

ニコボックス

萩原 喜代子

「はなみずき」の美しい季節になりました。どの木も緑が美しいですね！

林 永芳

少しダイエットに成功しました。うれしい

池森 由幸

先日の伊勢神宮家族会 多数ご参加下さいましてありがとうございました

小林 英毅

伊勢の家族旅行、なかなか出来ない経験をさせていただきました。家内も喜んでいました。

吉田様、池森様お世話になりました。

なお今日は囲碁会です。

小山 雅弘

ホームクラブ大変ご無沙汰しました。

久しぶりにいい仕事をしました。

鍋野 可幸

2014～15年度地区研修協議会の報告させていただきます。

渡邊 源市

保健衛生大学5年生の生方盟君を紹介します。

今日から4日間クリニックで実習です。

桧尾 富二

貴志 浩司

松岡多加倫

宮尾 紘司

三好 親

大口 弘和

太田 和孝

大谷 恩

尾関 武弘

佐野 寛

鈴木 理之

鈴木 聖三

竹内 克豊

竹内 眞三

谷口 優

舎人 経昭

碓氷 美佳

吉田 節美

吉田 玄

地区研修・協議会お疲れ様でした

報告よろしくお願ひします

和田 正敏

会員誕生日お祝い・結婚記念日お祝い

加藤 重雄

結婚記念日お祝い

山本 眞輔

結婚記念日お祝い

合計 83,000 円

次回例会 : 平成26年5月13日(火) 3階 錦の間
会員卓話